

4 本時について (11/11)

(1) ねらい: 全体の数を乗法九九を用いて工夫して求める活動を通して、同じ数ずつの集合を見つけて、1つ分の大きさのいくつ分を求め、それらの集合の数の和や差によって全体の数を求めればよいことに気づき、乗法九九を適用して全体の個数を求めることで乗法の意味理解を深めることができる。

(2) 本時の展開例

段階	ねらい	教師の働きかけ	学習活動	指導・援助(・)評価の観点()
つかむ	<p>前時を想起することができる。</p> <p>本時の問題場面を把握し、今までの学習経験を想起して、解決の見通しと確かな課題をもつことができる。</p>	<p>1 確かな課題をつかむ活動を位置づけ、必然性のある課題化を図る。</p> <p>・ から までの問題との共通点・相違点を明確に分類・整理することで、問題を把握させる。</p> <p>「困ったことは何ですか。」</p>	<p>もんだい(1) 黒い丸はぜんぶでなんこあるでしょう。</p> <p>1つ分の大きさ2の3つ分, $2 \times 3 = 6$ 6こ $3 \times 4 = 12$ 12こ $4 \times 5 = 20$ 20こ 簡単。 $5 \times \dots$ えっ! できない。途中で無いところがあって1つ分の大きさのいくつ分で求めることができない。 ・あっ でも、今までのことを使えばできそうだ。</p> <p>数えずに ぜんぶの数を もとめるほうほうを考えよう。</p>	<p>たくましい追究を生み出すために</p> <p>フラッシュカードにかかれたアレイ図の丸の数を数え、規則正しく並んだ1つ分の大きさを見つければ、既習のかけ算九九が使えることに気づけたか。</p> <p>・1つ分の大きさが規則正しくない問題(1)提示し、かけ算九九がそのまま使えないという抵抗を生ませ工夫して求めなければならぬという強い課題意識をもたせる。</p>
考えをもつ	<p>これまでの学習と結びつけて、自分なりに1つ分の大きさのいくつ分を見つめることができる。</p> <p>自分なりの説明で全部の数の求め方を説明することができる。</p> <p>仲間の考えとつないでよりよい考えをしようとすることができる。</p>	<p>2 既習とつなげ、自分なりの考えをもって追究する活動を位置づける。</p> <p>「どんな求め方がありますか。」</p> <p>3 妥当性を判断し、考えを類別することで、考えを深める全体交流を位置づける。</p> <p>「自分の考えを発表しましょう。」</p>	<p>ア $5 \times 3 = 15$ $3 \times 3 = 9$ あわせると $15 + 9 = 24$ 答え 24個</p> <p>イ $2 \times 3 = 6$, $3 \times 6 = 18$ あわせると $6 + 18 = 24$ 答え 24個</p> <p>ウ 左上の3つを、空いている所に入れて $4 \times 6 = 24$ 答え 24個</p> <p>エ $2 \times 3 = 6$を埋めてひく $5 \times 6 = 30$ $30 - 6 = 24$ 答え 24個</p> <p>・アやイはアレイ図で考えると、縦や横に分けた数をたし算で求めることができるよ。 ・ウは左上の3つをずらせば、1つのかけ算だけでできるから、はやくて簡単だよ。 ・エは、たりない所を埋めるから、かけ算を使いやすいな。 ・やっぱり、1つ分の大きさのいくつ分をはっきりさせれば、求めることができるね。</p>	<p>自分らしさを発揮し、たくましく歩み出すために</p> <p>・話せない子には、図を丸で囲むことで、どこを考えているのかははっきりとさせて、順に考えていけるように「はじめに、次に」という言葉を使って考えるように働きかける。</p> <p>アレイ図を基に、1つ分の大きさのいくつ分を自分なりにつくろうとしているか。</p> <p>仲間と豊かに練り合うために</p> <p>・図と式を結びつけていくことができるように、意図的指名や発問で全体交流を組織する。</p> <p>既習内容とつないで発言しているか。</p>
見つける	<p>問題(2)を通して、見つけた考えを生かすことができる。</p>	<p>4 数理的な処理のよさの視点を基に、有効性の判断をする問題(2)に取り組む活動を位置づける。</p>	<p>もんだい(2) 黒い丸はぜんぶでなんこあるでしょう。</p> <p>おや? 今度はいくつ分が大きくて、空いているところと出っ張ったところがある。動かして1つ分の大きさのいくつ分をつくって考えていけばいいな。</p> <p>オ 1つのかけ算と見て、式 9×13 かける数が13だと九九が使えない。かける数が9まで求めて $3 \times 9 = 27$ 残り $3 \times 4 = 12$, $27 + 12 = 39$ 答え 39個</p> <p>カ 左と右に分けて考えて 式 $3 \times 7 = 21$, $3 \times 6 = 18$ あわせて $21 + 18 = 39$ 答え 39個</p> <p>数えずにぜんぶの数を もとめるには1つ分の大きさのいくつ分をつくって、分けたりうごかしたりして考えればよい。</p> <p>たしかめもんだい おはじきがあります。ぱっと見ていくつかわかるようになりますよ。</p> <p>・自分でペアに話し、ペアの話もよくわかったよ。 ・1つ分の大きさのいくつ分を見つければ、かけ算九九を使って答えを求めることができるよ。これからもこの考え方を使得って、はやく、簡単に全部の数を求めることができそうだよ。</p>	<p>・問題(2)を位置づけ、問題(1)の考え方が確かに使えることを実感させる。</p> <p>・数理的な処理のよさを感じている子どもの発言を価値づける。</p> <p>ペア交流によって、考え方を確かにもつことができたか。</p> <p>ひびき合うことのよさを味わわせるために</p> <p>・本時の学習を振り返り、追究の態度や考え方について認め励ましていく。</p>
確かにする	<p>本時の学習を振り返るとともに、見つけた算数のよさとそれを使った歩みのよさを認識することができる。</p>	<p>5 考え方を確かに獲得できたことを実感できるように振り返りを位置づける。</p>		